

令和3年度 兵庫県立松陽高等学校（全日制課程） 学校自己評価結果及び学校関係者評価

【平均】 A：よくできた（4点） B：できた（3点） C：あまりできなかった（2点） D：できなかった（1点） *4点満を5点満点に換算				R3 活動評価		来年度の改善方針		
重点事項	年度努力事項（評価項目）	実践目標	評価内容		R2	R3		
			前年比較					
基本的な生活習慣の確立と基礎・基本の定着を図り、安全で楽しい学校づくりを目指す。	基本的な生活習慣を確立させる指導の工夫・改善を図る。	全教職員の意思統一が図られた生徒指導を実践する。	1 生徒指導（基本的な生活習慣の確立）について、 研修会 が実施されている。	3.6	↘	3.2	・生徒指導部会や研修会は時間割に組み込まずに、放課後に行きつらかった。ある程度の決め事があったほうが良い。	・今年度は、検討事項が多かったため、時間をかけて行うべき内容については、今後は部会だけではなく放課後にも時間を取っておこう。
			2 共通理解が図られた生徒指導ができています。	2.8	↗	3.1	・年度の途中で方針が変更することがあると思うが、変更されたことが共通理解にはつながっていなかったと感じる。そのため、生徒にもやや曖昧に伝わったものがあったように思う。 ・コロナ禍で、全校集会ができなかったこともあり、生徒への理解が学年によって異なる場合があった。	・コロナ禍で全校集会が行えない場合は、全校放送を使って生徒に一律に伝えていく。 ・本年度は、昨年度までの指導方法を踏まえ、指導の改善を図ったため指導方法に少し曖昧な部分もあったが、現行通りの指導方法に戻せたので、来年度に向けて、全職員が共通した指導ができるよう、よりわかりやすいルールづくりやマニュアルづくりをおこなう。
			3 いじめ問題に対して 組織的な対応 ができています。	3.9	↗	4.2	・学年や生徒指導部が連携して取り組んでいる。 ・早期発見から迅速に組織的な対応がされている。 ・各学期ごとに、保護者と生徒にアンケートを実施し、問題があれば各担任の先生が聞き取りを行い組織的に対応している。	・学年の先生が小さなことであっても、生徒とくみ細かく面談を行ってくれたことで、早期発見し、迅速な対応につながった。来年度も学年と指導部で連携を密に取りながら、組織的に対応していきたい。
		学校と家庭との連携強化が図られた指導を実践する。	4 学校HP、学校新聞、学年便り等、学校の教育活動や方針について 情報発信 がなされている。	3.9	↗	4.7	・HPは充実してきた。格段に良くなった。タイムリーに学校の取り組みが更新されており、各部署での取組が松陽日誌を通じてうまくできていた。 ・テレビ等の広報も良くなされている。 ・メールやスタディサプリ等、直接保護者のもとへ届く情報発信が行われており、適切だと感じる。	・引き続き、ホームページや携帯メールを利用して、学校や学年からの情報発信をより積極的にできるよう考えていく。更新方法については検討していく必要がある。担任・学年の負担を考えつつ担任と保護者の連絡が密にとれるよう協力体制を構築する。
			5 家庭連絡や家庭訪問、PTA活動を通して、 保護者との情報交換や意思の疎通 が図られている。	3.8	↗	4.4	・各学級担任により、保護者との情報共有が図られているように思う。 ・家庭連絡は徹底して行ったため、保護者からの協力が得られた。 ・保護者との関係づくりは重要であり、教職員一同そのことはよく理解した上で密な情報交換を行っている。	・保護者との情報交換・意思疎通のためにはメール・ホームページの活用や、担任・学年団の丁寧な電話対応等が必要である。今年度はうまくできていたが、一方で大きな負担となっているのが事実である。これから勤務の適正化を踏まえるための工夫が必要である。
			6 教職員と保護者が協働 して、教育活動や行事が実施されている。	3.0	↗	3.8	・保護者との協力体制は図られていると思う。 ・月1回、PTA役員の方々の協力を得て合同で登校指導を行っている。	・コロナ禍により、中止された行事もあった。これら影響が減少していけば今以上の連携協力体制が期待できると考える。
		生徒のマナーや規律・規範意識の高揚を図る。	7 学校行事やホームルーム、生徒会活動等を通して、 マナーや規律、規範意識を高める取組 が行われている。	3.1	↗	3.8	・行事やホームルーム活動、生徒会活動を通じて、マナーや規律、規範意識を高めるための取組ができていた。 ・学校で違反生徒の指導を強化するだけでなく、校外活動や実習等を通じて規範意識や社会性を根付かせることも重要だと感じる。 ・SNS等のインターネット上におけるマナーやルールに関しては、教職員側の知識不足が原因で、生徒達の問題や関心に対して後手に回っていると感じる。 ・学年によって、バラつきがある。	・来年度も行事やホームルーム活動等を通じて引き続き生徒の規範意識を高める取組を継続させていく。 ・SNS等の生徒向けマナー講習会を専門家を講師として招き行う。 ・学年による取組のバラつきができるだけなくなるように生徒指導部を中心に学年でコミュニケーションを取り合う。
			8 立ち番指導や電車内指導などを通じて、 通学マナー を向上させるための取組が行われている。	3.8	↗	3.9	・登下校の立ち番を行い、声かけを徹底し、通学マナーの向上に努めた。 ・コロナ禍により、電車内指導は例年ようにはできなかった。	・来年度も引き続き、登下校の立ち番を行い、通学マナーの向上に努めていきたい。 ・生徒の規範意識を高めていけるような声かけ指導や講演会を実施していく。
			9 生徒のマナーや規範意識を高めるため、 家庭や関係機関と連携 した取り組みが行われている。	3.1	↗	3.7	・家庭連絡は徹底して行ったため、保護者からの協力が得られた。 ・遅刻指導やイエローカード指導を通じて家庭と連携を図り取組んだ。	・学年と協力を図りながら遅刻指導やイエローカード指導など小さなことを見逃すことなく指導を徹底し、生徒の問題については、今後も密に連携を図り家庭と共通理解に努める。
	分かる授業、楽しい授業を展開し、基礎学力の定着を図る。	分かる授業、楽しい授業をするための工夫・改善に努める。	10 授業研究など学習指導について「 アクティブラーニング 」の観点を取り入れるなど工夫・改善がなされている。	3.3	↗	3.9	・各教科で新たな取組が多く見られたが、教職員によってばらつきがある。 ・ICTの活用が進みよかった。 ・生徒指導のみが課題として挙げられがちだが、実は学習指導が課題なのではないかと思う。	・令和4年度からスタートするBYOD (Bring Your Own Device) 導入に向けて、校内研修を積極的に行う。 ・教科横断的な議論の場を設け、「アクティブラーニング」を積極的に取り入れている教科から学ぶ機会をつくる。
			11 一般公開も含めた 授業公開 が、各教科において実施されている。	3.4	↗	4.0	・コロナ禍により、保護者に参観してもらえなかった。 ・公開週間などがあり、様々な教科の授業を参観できた。 ・実施されているが、見に行く時間を捻出できなかった。	・コロナ禍ではあるが、授業の公開週間を設定し授業参観の機会を増やす。
			12 校外研修会に参加するなど、 学習方法や教科指導の工夫改善 が図られている。	3.1	↗	3.6	・金融教育が「新カリキュラム」から導入されるので、校外研修に参加した。 ・教員の個々の努力によりICT化がすすめられているが、来年度のBYODに備えるにはまだ不十分だと思う。	・ICT化を進めるため定期的に校内研修（可能なら外部講師などにも依頼）を行い、多くの教員がICTを用いた授業に接する機会を増やす。
		多様な学習指導と適切な課題や補習、家庭学習の習慣化を図る。	13 個に応じた 多様な学習指導 が実施されている。	3.8	↗	4.1	・できていると思う。 ・低学力層へ目が向けられがちだが、上位層の受験指導についてより力を入れるべきだと思う。 ・習熟度別であったり、個別最適化の学びを進めてもよいかもしれない。特色科に頼るのではなく、普通科科目を注ぐべきだと考える。	・各教科、定期的な提出物の増加や下位層に対する補習などの実施に加え、上位層への受験指導を対象とした長期休暇中の補習を行う。 ・就職模試や看護模試などを実施し個々の進路意識を高める。 ・スタディサプリの運動課題の配信を活用する。
			14 課題や宿題の指導を通して、 家庭学習の習慣化 を図っている。	3.0	↗	3.4	・スタディサプリを使用した家庭学習など、計画的に家庭学習をする習慣をつけるようにしないと、家庭学習は根付かない。 ・生徒が自律した学習者になるような取組が必要である。	・スタディサプリの運動課題で個に応じた課題に取り組みさせる。 ・週末課題や長期課題など各教科が連携し、量も調整して課題を出す（自主課題を出す等）。
			15 基礎学力の定着や資格取得のための 補習 が実施されている。	3.6	↗	3.9	・模試（進路マップ・スタサポ到達度テスト）を課題考査に当てることにより、長期休業前の短縮期間中を有効に活用し、事前課題を利用して基礎学力定着、学び直しの機会を作る必要を感じる。 ・本校の生徒の学力の現状であれば、各教科の取組により、必ず効果は現れると考える。 ・補習に関しては、商業科・生活文化科においてとても手厚い指導がなされていると思うので、普通科のほうももっと補習をしていく必要がある。	・事前課題を休暇中課題にし、課題考査を模試（進路マップなど）にあてることで目的意識を持って課題や模試に取り組みさせる。 ・普通科の、特に上位層への進路指導を各教科で実施する。 ・漢検、英検などは一年生での全員受験は継続していく。その時には、LHRや朝学で勉強の時間をとるなど、合格する意識づけを持たせるように心がける。
		生徒の興味・関心・進路に応じた教育活動を展開する。	16 総合的な探究（学習）の時間では、「 生きる力 」「 キャリア教育 」を意識した教育が行われている。	3.4	↗	3.7	・昨年度、カリキュラムの大枠ができ、今年度はそれをアップデートできたので、誰が担当になってみてもできるようになってきた。 ・「防災教育」などは、身近な安全を考えるという意味で、非常に意味のある取組だと思う。	・カリキュラムの大枠はできているので、さらにアップデートしていく（授業内容の充実、新しい授業内容の模索・追加） ・後半にPCによるまとめ作業をするので、情報教室の確保をする。
			17 生徒の 進路希望 に応じたカリキュラムや多様な選択科目が設定されている。	3.5	↗	3.9	・大学進学者に対するカリキュラムになっていない。 ・進路意識を持たせるようにもっと早い段階から働きかけなければならない。 ・進路に必要な科目を把握できていない生徒がいる。	・進学（一般入試）にも対応できるようなカリキュラムに変えていく。また、早く楽に合格できる方法だけではなく、最後までがんばらせることも、進路ガイダンス、学年集会、LHRなどで伝えていく。
			18 地域の人材や素材を活用した 特色ある授業の取組 が行われている。	3.5	↗	4.1	・商業科や生活文化科において、よく取組が行われている。これをもっと学校全体として取組んでいく必要がある。	・商業科では、課題研究や商品開発などで積極的な講師派遣を行い、地域の方たちとかわる機会を作っている。また販売実習を実施することで地域の中での活躍の場も設けているので、実施時期、場所の精選をする。 ・これら取組をもっと学校全体に広めていく必要がある。
望ましい人間関係を築き、生徒の生命と財産が守られ、差別的ない安全な学校環境を構築する。	生徒一人ひとりに居場所があり、温かい人間関係が築ける 学級経営 を行う。	19 クラスの中で、他人を馬鹿にしたり、からかったりせず、 互いを認め合う好ましい人間関係 が築かれている。	3.4	↗	3.6	・成年年齢が引き下げられることにより、在籍中に成年に達するようになる今後は、担任中心のクラス運営だけでなく、自分たちで組織を運営する力を養うことも考えていかなければならない。 ・大半の生徒はできているが、一部では心無い発言が聞こえることもある。 ・クラスを廃止するような案があってもいいかもしれない。担任や学年の先生との関係性はあるが、生徒同士での人間関係となると不和が存在する。	・担任一人で抱え込まないように、学年、専門部、教科等、全職員での連携を図る。そのために平日のコミュニケーションを大切にいく。	
		20 生徒一人一人にとって、 役割や活躍の場 が、様々な教育活動の中にある。	3.3	↗	3.8	・委員会によっては活動に幅があるように思う。 ・部活動の加入率やボランティア活動への参加率が低いので、もっと様々な教育活動に参加させることから考えるべきではないか。	・部活動の加入率「30%以上」と明確な目標数値をたてる。 ・部活動活性化させるために、顧問の部活動への関わり時間を増やす必要がある。また、ボランティアに関しては、生徒会を中心にボランティアに積極的に参加できるような取組をしていく。	
		21 生徒の 個人面談や日頃の声かけ指導 ができています。	3.9	↗	4.6	・担任の先生を中心に、各学年、個々の生徒に対して、きめ細やかな指導が手厚い声掛けができています。 ・他の先生方と協力体制を取り行った。	・担任の先生方は、生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導ができています。これからもこの状態を継続するために勤務の適正化を考えた働き方改革をしていく。	
	防災教育、安全教育の充実を図る。	22 避難訓練や交通ルールを遵守する指導等、 参加型・体験的な教育活動 が実施されている。	2.8	↗	3.4	・コロナ禍により、体験的な教育は実施できていないように感じる。今年度は活動型の指導はうまく実践できなかった。	・年に2回、違った形の避難訓練を実施する。 ・交通安全マナー指導の講習会を実施する。	
		23 防災教育や安全教育 が、学校全体はもとより 学年行事やホームルーム で行われている。	3.4	↗	3.9	・今年度においては、防災教育の推進校として様々な取組が見られた。 ・HRIについては、学校全体で計画があるとありがたい。 ・ホームルーム教室では意識して取組むようにした。	・年に2回、違った形の避難訓練を実施する。 ・年1回は、講師に来ていただき防災講演会を実施する。	
		24 地域の関係機関や外部講師を活用して、 生徒の防災意識、安全意識の高揚 が図られている。	3.1	↗	3.5	・コロナ禍により、実施できなかった。	・年1回は、講師にきていただき防災講演会を実施する。 ・地域の消防士に来ていただき、AED講習なり心肺蘇生法の講習会を実施する（HRなどで体育教員による実施でもよい）	
	人権教育を充実させ、人権意識の高揚を図る。	25 人権教育が3年間を見通した年間指導計画 に基づき、計画的に実施されている。	3.3	↗	3.8	・計画的に取り組んでいる。	・各学年の実態等を考慮して計画を立てていく。	
		26 人権意識を高めるための 職員研修会 が、計画的に行われている。	3.5	↗	3.6	・計画的に実施されている。	・毎年違ったテーマを設定することで幅広い見識を備えることができるよう工夫する。	
		27 講演会や映画会等を通して、 生徒・職員の人権意識を高める取組 が行われている。	3.5	↗	3.8	・よく実施されていると思う。	・新しい話題にも注目していきながら教員の知見を広げていく。	
学校関係者評価委員会からの提言								
<p>・27の項目の中で26項目が前年度より評価が上がっていることを評価する。特に(4)(6)が0.8%、(7)(2)が0.7%と顕著上がっている。情報発信に力を入れ、教職員と保護者が協働していることは大変素晴らしい。</p> <p>・行事に親の人数制限があり、イベント数の減少等もあり、写真だけでも購入できればという保護者の声も多く検討してほしい。</p> <p>・図書館利用に関して、保護者も活用できる日があればありがたい。</p> <p>・自分自身、会社を営むにあたり「常に対象は人」であることを強く思い日々の行動（人に対して）心がけている。そのことが重点項目として記載していることが素晴らしい。先生方全員が同じ思いで日々行動すれば、さらに進化（生徒・保護者・地域が大きく変化⇒進化）するのではないかと感じる。</p> <p>・コロナの中、いろいろと制限もあり、活動自体が厳しい中、生徒・保護者からのアンケートでもポイントアップしており頑張っていると感じている。今後も継続していきたい。</p> <p>・「生徒への声かけ」は当たり前で簡単なようだが100%実践するのは難しい。それでも面談が一番の学校」を目指してあいさつから始めていることは大切なことである。いろんな個性を持った生徒たちに戸惑いや失望もあると思うが、小さなことから積み重ねることが実現への一歩であり成功への道である。母校の伝統である生徒との信頼関係を深めていくことに感謝。</p>								